

佳作

## 段差一つ越える努力

北海道 士別市立朝日中学校二年 多羽田 菜月

みなさんは、「歩く」という、最も身近で日常的な動作が困難になった時、何を感じるだろうか。私はある経験をして、数えきれないほどの発見と感謝に気づくことができた。

昨年十月。それは突然の出来事だった。いつもの部活が終わり、帰ろうとした時、急に足の力が入らなくなり、歩くことができなくなった。手も震え出し、病院に入院することになった。たたくさん検査をしたが、大きな病気はなく安心したが、「歩く」という簡単とさえ思っていた動作ができない自分が、情けなくて辛かった。その記憶は今でも、はっきりと覚えていいる。

それから普段何気なく過ごしていた学校生活が車椅子生活へと変わった。車椅子を押してくれたり、荷物を持ってくれたりと、こんな私を気遣ってくれ

た友達。階段で上り下りができなくてギブアップした私をおぶってくれたり、緩やかな坂や手すりを設置してくれた先生方。入院していた時、仕事で忙しいのに、毎晩病院まで会いに来てくれたり、相談に乗ってくれた大好きな家族。全ての人に迷惑をかけたしまい、申し訳ない気持ちと、感謝してもしきれない気持ちは今でも強く強く心に残っている。

今ではすっかり病気も治り、元気になったが、当時は車椅子や歩行器がない生活などあり得なかった。もちろん階段では、手すりが手離せなかったし、少し上るだけでも体力が消耗され、足に力が入らず苦しかった。歩くことが困難な人や体が不自由な方にとって、「段差一つ越えること」がこんなにも大変なんだということ、この時、身をもって経験し、気づくことができた。

——人は一人では生きられない。——

私はまさにそれを経験した。苦しかった時や困った時には、必ず助けてくれる人がいること。そして、そんな時こそいつも支えてくれる人達への感謝がより一層深まるということ、私はこの経験があったからこそ気づくことができた。生きていく上で当たり前だと思っていることにこそ大切なものがあると

いう、今までにないような新しい目線で目の前のことに向かうことができた。

病気を経験した今、私は一日一日を大切にしたいという気持ちが強くなった。今は、今まで以上に人の支えになり、私を支えてくれた人達に恩返ししたいと思っている。クラスの仲間たちのためにリーダーとして積極的に行動し、引っ張っていきたいという気持ちが生まれた。また家族に対しても、大好きな気持ちが前よりも強くなった。これからはもっと家族を支えていきたい。今までは言われてからやっていた家事。でもこれからはすすんで手伝いたい。

一日一日を全力で取り組みたい。今私がそう思えるのは、普段の生活にありがたみを感じられるようになったからだ。何気ない生活こそが何よりも素晴らしいと思う。みんなにもそう感じてもらえたら嬉しく思う。